

○全体構成

(1) 農林水産ビジョンの基本的考え方	①基本認識と策定趣旨 ②総合計画等との関係 ③ビジョンの計画期間
(2) 農林水産業や農山漁村をめぐる現状とすう勢	①全国的な動向や京都府の状況 ②これまでの施策の成果と残された課題 ③京都を取り巻く新たな動きや未来への萌芽
(3) 農林水産業・農山漁村の将来ビジョン	①将来実現したい農林水産業・農山漁村の姿 ②10年後の農林水産業の構造の具体的展望
(4) 将来ビジョンの実現に向けたコアコンセプトと重点戦略	①夢と未来を創る京都府農政のコアコンセプト ②今後集中展開を図る重点戦略 ③重点戦略に基づく具体的施策と成果指標
(5) 農林水産ビジョンの推進体制	①関連施策の推進と分野別計画・指針の見直し ②ビジョンの進捗管理と府民への「見える化」 ③多様な関係者とのネットワークや情報発信

○未来志向で進める農林水産行政のコアコンセプト

魅力的な「産業」として
夢あふれる農林水産業の
イノベーションを実現

ビジネスの創出 府民理解

- ・情報インフラ整備
- ・農山漁村を魅せる
- ・頼れる窓口づくり
- ・農山漁村を支える

地域の人々の
希望と活力に満ちた
「農山漁村」を実現

防災対策や食の安全確保
など安心・安全な地域社
会を実現

○検討委員会の開催状況と主な御意見

■第1回(H30.9.27) 検討の進め方(キックオフ)

- 京都の地域の持つ個性を生かすべき
- 若者から選ばれる農林水産業の展望を描くべき
- ICTは生産の効率化と集落の省力化等幅広い場面での活用を検討すべき

■第2回(H30.11.29) 農業、畜産業の振興

- 生産物は器や調理法等どう食べてほしいか、食文化もセットで打ち出すべき
- 生産を行う上で農地をどう守るかの視点も重要
- 農業の現場に人・金・もの・情報が整い、ICT等により成長産業化が見込まれる
- JASやGAPなど国際水準の取組が必要

■第3回(H31.1.24) 水産業、森林・林業の振興

- 人材育成は生産だけではなく、流通・消費まで考えて行うことが必要
- ブランド化は京都固有のストーリーを分かりやすく具体的に伝えることが必要
- 農閑期に林業を行うなど業を横断した人づくりが必要
- 森林の所有者不明や、境界確定など伐採を進めるための行政の対応が必要

■第4回(H31.3.12) 流通・販売戦略、農山漁村づくり

- 農業は地元の企業が地元のために行うことで長続きする。
- 農地は荒らしてしまうと戻すのが大変。維持し続けることが重要
- どこかの地域が活性化するのではなく全ての地域を対象にするという考え方が大切
- 地域のことを何でも相談できる窓口となる人や団体を外部人材も含め確保が必要

■第5回(R元.5.15) スマート農林水産業・輸出(今回)